鈴売り

日向　銀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
鈴売り

【Ｎコード】
Ｎ４７１４Ｅ

【作者名】
日向　銀

【あらすじ】
鈴売りは今日も歩く。祝福と不幸を運びながら。

鈴売りは今日も歩く。祝福と不幸を運びながら。
砂漠の上を、森の中を、空の下を。
鈴売りは、今日も行く。

「ちょいと、鈴売りさん。私にその鈴を下さいな」

街の中を歩いていると鈴売りは、女の人に呼び止められた。
鈴売りは、鈴がたくさんはいっているカゴを女の人に差し出した。

「ありがとう」

女の人は、祝福・魔よけの鈴を手のひらでつかみ取りし、たくさんの鈴を持っていった。
鈴売りは今日も歩く。祝福と不幸を運びながら。

「鈴は1つで十分なのに。あんなにとっていったらどんな祝福ににた不幸が起こるんだろうね？」

鈴売りは、女の人の走り去る背中を見てそう、呟いた。
祝福はありすぎると不幸になる。
不幸はありすぎると祝福になる。
不幸は祝福の起こったぶんだけ、跳ね返ってくる。
祝福は不幸の起こったぶんだけ、跳ね返ってくる。

「ねぇ、鈴売りさん。僕にその小さな鈴を1つ下さいな」

森の中を歩いていると鈴売りは、子リスに呼び止められた。
鈴売りは、鈴がたくさんはいっているカゴから一番小さな鈴を取り出し子リスに渡した。

「ありがとう」

子リスは、祝福・魔よけの鈴を掴み、行ってしまった。
鈴売りは今日も歩く。祝福と不幸を運びながら。

「小さな小さな祝福。きっと、跳ね返ってくる不幸はもしかしたら起こらないかもね」

鈴売りは、子リスの走り去る背中を見てそう、呟いた。
小さな祝福には祝福が返って来る。祝福が大きくなる。それは、自分で祝福を育てるから。

鈴売りは今日も歩く。祝福と不幸を運びながら。
砂漠の上を、森の中を、空の下を。
鈴売りは、今日も行く。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4714e/

鈴売り

2011年5月29日03時40分発行